

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail fuchu_nakagawara_church@hotmail.com

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

牧会書簡／ 小会だより／ 聖書の学び

2020年6月14日（第十二報）

牧会書簡等第十二報をお届けします。先日、定期小会において、6月14日からの教会堂での礼拝再開を決議いたしました。そのため、このたびの第十二報をもって、公的な牧会書簡としては、いったん終わりになります。今後は、実際に教会にお集まりいただくか、オンラインでの礼拝を継続なさるか、それぞれの状況に応じた選択をしていただくこととなります。主が一人ひとりの祈りに耳を傾け、御旨のままに私たちの群れを導いてくださいますように、ご一緒に祈りを合わせたいと存じます。

目次

目次

牧会書簡（12）敬愛する皆さまへ～礼拝再開に向けて.....	1
小会だより（6月7日オンライン定期小会報告）	11
聖書の学びについてのお知らせ	16
同封：6月14日～28日の礼拝予定表	

牧会書簡（12）

敬愛する皆さまへ

～教会での礼拝を再開するにあたって

主の御名を讃美いたします。

すでに会員の皆様を中心に、小会からお電話で連絡させていただいたように、**6月14日（日）から、日本キリスト教会府中中河原教会（府中市住吉町）の礼拝堂およびホワイエを会場にした主日礼拝を再開**することが決議されました（一方、**祈祷会**については、まだお休みを続けます。ただ、牧師個人として、オンライン会議の「Zoom（ズーム）」を利用した、**ビデオ通話による聖書の学びと祈りの会**を立ち上げようと思っています。以下、「聖書の学びについてのお知らせ」をご覧ください）。礼拝再開が、雨の季節になってしまったことは残念ですが、開かれた扉を通して、それぞれの場所から、緑の田んぼに囲まれた教会に集ってこられる皆様と共に、主のみことばを聴き、感謝をもって礼拝するときを、今から楽しみにしています。

不安の残る現況について

さて、いずれにしましても、いまだ新型コロナウイルスのワクチンが開発されたわけでもなく、世界各国のロックダウン解除後の感染実例から見ても、今なお第二次感染の恐れが指摘される現状があります。その意味で、私たちの小会もまた、いずれの楽観的意見ともできるだけ距離を置かねばならないことを認識しています。つまり状況は、2週間前——政府の外出自粛要請が段階的に終了することを受けて臨時小会として「様子を見る」ことを決めたとき——から大きな変化を示しておらず、私たちは、不安が残るなかで教会堂を開こうとしている、ということになります。私個人も、ある政治家たちがコロナ禍短期終息の目測を語る時のビッグマウスを信じがたいと思っています（私見にすぎませんが、一番分かり易い例はトランプ大統領でしょうか。また、安部首相や小池都知事についても、その言葉の透明度や論理的説得力、概して根本的な信頼度が日を追うごとに低くなると私は感じています）。むしろ、ひとりの人がもし

牧会書簡（12）

感染していた場合、そのひとりが何人に移すことになるか、その感染経路を特定し、その感染拡大率によって判断することが最重要で、そう判断するなら今も予断をゆるさない状況だ、と語る指導者（ドイツのメルケル首相などが良い例です）の言葉に、より誠意を感じます。今後、ひとりが1名に移す場合の医療現場と、平均1・3人に移す場合の医療現場とでは、ぜんぜん風景が違うでしょう。では、府中市ではどうなのか、多摩地域、東京都と近郊では？ どの情報を信じてよいか、なかなか見極めが難しい現状にあって、私たちは、今後こそ、変わらない緊張を保っていなければならないと感じています。

それぞれの判断に伴う緊張と責任について

このような状況下で教会を開くという決断は、なお一定の（あるいは なお一層の）「緊張」を、牧師・長老だけでなく、みなさまそれぞれにも、個別に強いることになりかねません。しかもそれは、「無自覚の感染源／感染者」となるかもしれないという抜き差しならぬ緊張であることは、私もたびたび牧会書簡をとおして指摘させていただいたとおりです。

今回の小会決議は、したがって、命に関わる判断を、今後は毎週みなさまに委ねるという判断として受け止められる側面もあると思うわけです。礼拝出席のために、場合によっては電車やバスを乗り継いででも教会に足を運ぶかどうか、各位の判断の自由の余地が生まれるということは、同時に、ある一定の責任が、皆様の側に生じるということにもなるのだ、と。皆さまに同居する家族の方がいる場合や、定期的に通う病院・学校・職場がある場合などは、とくにその関係性のなかで、可能なかぎり周囲との対話を重ねたうえで、御判断いただきたいと存じます。

長老たちの判断と、信徒の判断の区別について

私は、この発言自体を、牧師や小会の無責任な押し付けとならないように、ギリギリのところ
で絞り出しているつもりです。すなわち当然ながら、長老制度においては今後も小会に、主の
委託に基づく最も重い責任があることに変わりはありません（一番は議長である牧師の責任
です）。3月末（政府の自粛要請直前）から今日にいたるまで、小会としてその責任を、
主と主の愛される命への畏敬と恐れをもって覚えながら、「教会活動のための外出自粛要請」
の独立した判断をして参りましたし、今後も、たとえば7月や8月の定期小会時の状況次第
では、ふたたび教会の扉を「一方的に」閉じるような可能性もあると考えています。その場合、
長老制度においては、会議の決定に主の御心が表れているかどうか、各自が問い、疑義があ
る場合は率直に意見を表明していただきつつも、基本的には決議に従う誓約がなされている
ことを、それぞれ重く視ていただくことになろうかと思えます。

しかし、これから少なくとも六月いっぱい、どこでどのように礼拝するのか、皆様に、これまで
以上の礼拝の（場に関する）自由が、公に、主の委託に基づき、府中中河原教会の総会
で選出された当の長老会議の権威のもとに、表明されている、ということです。

万人祭司の福音主義教会にあって、主の霊によって示されるそれぞれの召命

今回小会議長として、私は、牧師を含む長老たちの「礼拝を治めるつとめ」（と責任）を
軽視せずに、しかし同時に、コロナ禍のギリギリの状況にあって皆様が礼拝者としてどう判断な
さるかは、それぞれの状況における祈りの決断に委ねられているという側面を大事に考える必
要がある、と判断しました。

ここで強調される、古くて新しい事柄は、**万人祭司の福音主義的原理**だということもできる
でしょうか。わたしたちは、例外なく、だれもがみな礼拝者として、主と主の教会に仕え、さらに

牧会書簡（12）

主が命をさしだして救われた隣人の命に仕えるために、どの場所に立つかを問われ、自由に吹き付ける主イエスの霊の導きに委ねつつ、判断をしていかなければならない、というキリスト者の自由に関わる原理のことです。もっといえば、これは、それぞれの**召命（賜物に応じて、どこでどのように主に仕えるのか）**に関わる問題だということです。

ここで、皆様の人生を、ぜひ振り返っていただければと思います。ときに、主の霊は私たちの思いをこえて、当初行こうと予定していた道を塞いでしまったのではないのでしょうか。自分や家族が病気を患ったこともあり、あるいは齢重ねる中で覚える弱さによって、行きたい場所に行けないということもあったでしょうし、この数か月のように、感染症や災害の脅威が、私たちの教会の扉に通じる道に立ちほだかることもあったでしょう。そうでなくとも、私たちは、主の霊に聴きながら、どの場所で礼拝するのか、ということ、じつは毎週問われてきたのではないのでしょうか。そしてそこにおける決断が、その主の日ははじまる日常を方向付けてきたのではないのでしょうか。

子供のころから教会に通っている方は、この問いを物心ついたころから知っています。そうでなくとも次の例に似た経験に思い当たることはないのでしょうか。よりもよって日曜日に運動会や発表会などの行事が重なるときのこと。そんなとき、私たちは主をどこで礼拝してきたでしょう（それとも礼拝をしない日があったでしょうか）。私は、主の御前（＝教会）に出ていくことを、何より優先するよう親や歴代の牧師に教えられましたが、それでも牧師や親は、毎度のごとく、最後には「自分で祈って決断しなさい」という一言を添えるのでした。

「（父さんと母さんは、）何が一番大事か、示してきたつもり。やけん〔＝だから〕、あとは周平が自分で祈って、判断せんといかんやろ」（今でも一字一句鮮明に覚えている九州訛りの父の言葉）。

結局私の場合は、礼拝以外の行動を選択したときに心にぽっかり空く「穴」と、礼拝を積極的に選択したときの心の「充満」との両方を経験して、牧師として「礼拝の場」から逃れられない道へと導かれることになったのでした。皆さんもまた、それぞれに、礼拝の場所に関わって「召命」を問われる経験を、多かれ少なかれ、思い起こすことができるのではないのでしょうか。最近

牧会書簡（12）

では、仕事の出張や転勤で突然の転機を迎え、礼拝場所を変える必要が生じる兄弟姉妹もおられました。そのような場合に、自分たちにはどの地で教会に仕えるようにと主が召しておられるのか、私も牧師としてご一緒に祈り問う時間を重ねてきたことを思います。どこで礼拝するのか、だれと一緒に礼拝をするのか、その問いは、実は、コロナ禍以前から、若い者にも齢重ねた者にも、だれにでも、つねに私たちの一番の信仰の問題であり、生涯を左右する問題となりうるものなのです。

複数の礼拝場所にあつて、ひとつの「見える教会」に属し、「見えない教会」に連なる

むろん、学校の運動会や発表会、あるいは模擬試験とは異なって、コロナ禍では私たちは一層複雑な問いをつきつけられ、難しい判断を迫られることになりました。というのもこれが、明確な「世の活動」と「教会の活動」の目に見える対置の構図では計ることができない、「見える教会堂での礼拝」と「見えない教会共同体における礼拝」の接点がどこにあるかを見極める作業であるからです。見える教会とは、府中中河原教会なら日本キリスト教会であり、府中中河原教会。共同体の実態が、同時に、社会における宗教団体（法人格）でもあるような集合人格のことであり、見えない教会とは、それらの教派的な別を越えて、神の御前に、主イエス・キリストの御名に信実に結ばれているとみなされる、ひとつの公同の（普遍的な）教会のことです。今まで、多くの皆様にとっては、「見える教会」⇒「見えない教会」の線があまり矛盾なく繋がっていたので、一教派に連なり続け、府中なら府中の同じ教会の場を自分の仕える場所と考え、通い続けることができたのだと思います。たとえば、「柏木教会」から「多摩集会所」へとか、他派から「日本キリスト教会」へ、などと礼拝の場所をうつるときでも——その他には会堂建築をきっかけにした引っ越しもありましたが、その場合もそうですね——、主のその地におけ

牧会書簡（12）

る個々の召命を必ず問われました。そして、新たな場所に立たされて、「見えない教会」つまり「共同教会」に連なっているとの確信を深める作業をしてきたのだと思います。

では、今回、この理解は変化したのでしょうか。いや、変化はしていない、ひとつの場所に集まり、ひとつの教会に連なる、この伝統的な理解をなおも大事に考えるという意味では、私たちはコロナの故に離ればなれになって、いっそうその思いを強くしたということもできるでしょうか。そのとおりです。教会から離れるほどに、私たちは「帰還」の意味を、またひとつの見える教会に集まる意義を、深く胸に確かめ合ってきたのです。

ただ、一方で小会としては、今回、新しい視座にも信仰の目（ヴィジョン）が開かれてきたことを、認めようとしてきました。以下の①の視座を、これまでの② = ③の理解とともに、改めて確認した、とまとめることが許されるでしょうか。

つまり、① どの礼拝場所にあっても、②同じ日本キリスト教会府中中河原教会に属する見える共同体の一員として、③見えない教会に連なる希望を共有できる、ということです。まとめると、今回更新された私たちの立場は、次のようになるでしょう（以下も含め本書簡は、小会での対話を続けながらの牧師の目下の見解であり、小会の決議を経た公的文書ではありません。反対意見や理解しがたい点などありましたら、ぜひ、今後の対話や協議に加わって下さればと思います）。

① 礼拝場所の複数性は認められる：

教会堂ではもちろん、病院でも家庭でも、離散の地や避難所などでも、別々の場所で、共なる礼拝に連なることができることを認める。その場合、手紙やインターネットなどを用いて同じ御言葉を共有して祈る時間を共に持つことが相応しく、そのための、小会や信徒各人による牧会的配慮が不可欠である。なお、聖餐をオンラインで

共有することができるかについて、当教会小会は否定的であるが、緊急事態措置としての是非など、まだ議論が尽くされているわけではなく、広く深く中・大会レベルに至る協議が待たれる事柄であると考えられる。

② 所属する「見える教会」は各人につき一つ：

地上の生にあって、信仰者各人が、一教派の、ひとつの見える教会に属することは、なお「告白的一致」の観点から不可欠であることを認める。とくに洗礼を受けたものに限定される聖餐礼拝が、共同教会に連ねられた者たちが共に味わう御国の祝宴の喜びを予め示す、教派性を問わない普遍的なものであるとともに、世にあっては、「主の見える共同体」の告白的一致の具体性を示すしるしとして、各教派・各教会の神学的一致に基づいて執行されることが重要であることを認める。

③ 共同教会の一員であるとの希望：

私たちが生きる限り、主を頭とする見える教会への所属（洗礼のしるしをもって交わりに加えられること）を通してのみ、共同教会に連なる希望が開かれることを認める。なお、見える教会に属する誰が、真実に共同教会に連ねられているかは、主のみがご存知の事柄であり、その点では、生涯にわたって礼拝に目にみえて出席していない会員やその家族、隣人のためにも、見える教会とそこにつらなる一人ひとり、共に共同教会の一員とされる希望をもって、執り成しの祈りを続けなければならない。

長老制をとる教会のジレンマのなか改めて考える、小会のリーダーシップについて

さて、議論が大きくなってまいりました。すこし、話題を戻しましょう。つまり、小会の責任によってなされてきた礼拝休止の決議と、信仰者各位でなすべき礼拝出席の判断と、それぞれのレベルでの判断が存在する、というお話しです。

今の時期に小会が置かれたジレンマ（判断の難しさ）は、私見では、長老制をとる教会がいつもかかえてきた、小会（代議制による少人数の長老会議）と総会（会員全員の総意を必要とする会議）との間の緊張関係を、少しばかり思い起こさせるものだといわなければなりません。感染症の不安がある中、公的礼拝を休むかどうかは、小会が決めることがらなのか、信徒一人ひとりが決めることがらなのか。私たちの小会では、外出自粛の判断にあたって、結果として諸段階にわけることになったと、私は考えています。

I. 緊急事態（告白的事態）の対応は、小会がただちに全体の方向付けを示す：

第一に、感染（パンデミック）の嵐が吹き始めた渦中であれば、小会のリーダーシップをいち早く明確に打ち出し、皆さん一人ひとりを説得しつつ方向付ける作業をすることに躊躇いはありません。この時点での礼拝休止は、小会が決めるべきことがらであり、決議される「外出自粛要請」などは、会員に対しては、誓約に基づくある強制力すらもっています。

II. 緊急事態解除は、小会のリーダーシップのもと、段階的に行う：

第二に、感染の拡大が緩やかになっていくなかで、完全終結宣言以前であっても、「もう礼拝を再開しても良い頃ではないか」という会員の声がおよそ半数を超えるような形で聞こえてくることとなります。人の声よりも神よ、あなたの御声に聴くことを優先に、との祈りから始まる長老会議でも、礼拝再開を求める意見が、反対論との議論を丁寧

牧会書簡（12）

に重ねたうえでも過半数をこえる事態になりますと、当然そのとおり決議することになります。しかしその際、再開にあたっては、とても丁寧な段階をふまなければなりません。その段階を示すのは、なお小会の役割です。まずは、小会の責任で、再開を告知するとしても、同時に、強い注意喚起を継続する段階です。今わたしたちは、この段階にあると思います（本牧会書簡は、「注意喚起」のためのお手紙だとお考えいただいても大丈夫です）。ここで小会は、ほぼ強制力に近い効力をもった「外出自粛要請」を取り払い、各信徒の意見の多様性に関わっていくのですが、それでも、全体として「非日常性」はなお継続され、緊張しながら小会と信徒が判断の是非を問う作業を続けていきます。この場合も、適宜必要な全体的な判断は、小会が責任をもって見極めますが、しかし、この段階では、信徒各人のそれぞれの判断も一層大切だとみなされます。

Ⅲ. 緊急事態の完全な終結宣言は、総会的な会員の総意のもとで確認をする：

いつでも小会が再び強い緊急事態措置に入ることが可能なⅡの段階を経て、ようやく、内外の皆さんが感染症の脅威が過ぎた、と語ることができる段階が、その後やってきます。そのときには、臨時総会を開くかどうかは別として、皆さんで集まり、主の導きに対する感謝と、この間に覚えた痛みを覚えて執り成しをなす祈りの機会を設けることになるでしょう。そのころには、総会的な会員の総意と小会の方向性が、一つのものとして確認されている必要があります。

終わりに、恐れながら注意喚起を

ひとたび牧会書簡の区切りを、と考えると、冗長になってしまいました。以上のⅡのなかで、最初の段階が現段階だと私個人は理解しているということです。「注意喚起」を強める段階。小会としても、感染対策としての人と物の消毒やマスク着用、換気の徹底、説教壇と会衆席を

牧会書簡（12）

隔てるアクリル板の設置、ホワイエ空間や2階席を利用した会衆席のソーシャルディスタンスなどを新たに整えたうえで、礼拝自体も「時短」のプログラムで臨みますが、なにより皆様が、日曜日の朝までごまかしなく、個々の状況を丁寧に見極めて、礼拝出席を会堂であるか、オンラインや文書であるか、判断・決断してくださいますよう、よろしく願いいたします。最低限の条件として、37度5分以上の熱がある方は、どれほどお元気でも、教会に入ることをお控えいただきますようお願い申し上げます。その他は、持病の有無、年齢、ご家族の状況、お住まいの地域の感染者情報等、それぞれに判断材料があるかと存じます。各自に小会からみなさまへ、その点の判断をお委ねさせていただきます。

……と、たくさんたくさん申し上げました。長文・乱文にて失礼いたしました。いろいろ書きましたが、ひとたび皆さんの顔を見ると、私のほうから、考えていたことが吹き飛ぶような行動をしてしまうかもしれないな、などと最後には思います。来たる主の日、私がもし、距離感を失ってみなさまに手を伸ばしたり、ぺちゃくちゃとおしゃべりを始めたら、どうぞたしなめてくださいますように。みなさまの健康が守られる中で、主の栄光が重厚に確認される礼拝がなされることが一番だと考えています。私たちの思いではなく、主の御旨が、その御計画が、私たちの群れの乏しい歩みを通して、確かに果たされてゆきますように！

心から祈りつつ。

2020年6月11日 府中中河原教会 牧師 大石周平

小会だより ～6月7日オンライン定期小会報告

— 6月7日（日）、スカイプを利用したオンライン会議として、**第6回定期小会**が、牧師・長老全員出席のうえ行われました。以下、当小会の決議・協議事項について、一部を箇条書きでお知らせいたします。

決議事項

1. 「教会活動のための外出自粛」の件

教会からの外出自粛要請は、6月13日（日）をもって取り下げ、その後は個々に礼拝出席の判断がなされることになる。これに伴い、牧会書簡も第12報でひとまず終了する（第12報で、6月14日以降の礼拝予定表を添付）が、礼拝に出席できない会員等への牧会的な配慮として、今後も手紙や電話等を用いた交わりを心掛ける。

2. 公的に開かれた主日礼拝の休止を継続する件

6月14日（日）から毎週の礼拝を再開する（詳細は協議事項で申し合わせる）。

3. 公的に開かれた祈禱会の休止を継続する件

少なくとも6月末まで休止期間を継続し、その後については7月の定期小会で諮る。その間の聖書の学びと祈りのため、6月18日（木）から、牧師が、個人で（小会承認のもと）「オンライン祈禱会」の試みを始める。

4. 2020年度オープンチャーチの件

本年度は、通常のオープンチャーチを中止とする。

ただし、変わるプログラムとして、地域社会への奉仕活動の検討を始める。

小会だより ～6月7日オンライン定期小会報告

協議事項

1. 礼拝・祈祷会休止期間中の会員の安否について。

- (1) 会員消息； 5月26日（火）の電話連絡の報告を受けた。
- (2) 子どもたちや青年たちの環境について
 - ・ 府中の中学校では、不定期・短時間の「登校日」が指定されてきたが、6月第2週から毎日、クラスを午前・午後の二部にわけた体制で、授業が行われる予定。政府のすすめによるカリキュラムでは、試験勉強のような授業形態と夏休みの短縮の可能性など、子どもたちへの負担が大きいことが懸念される。
 - ・ 幼稚園でも登園日であり、まもなく通常通りの登園が始まる。
 - ・ 大学ではまだ通常の授業が始まっていない場合がほとんどであり、アルバイトもできない中、実家で過ごす青年も。みな、オンラインで学生生活・信仰生活を送っている。
- (3) なおリハビリを続けながら入院中の会員の自宅の整理を委託され、長老たちを中心に奉仕を重ねてきたが、6月6日（土）にリサイクル業者が入り、片付け完了の見通しがたった。6月17日（水）に粗大ごみを整理して、終わりとする予定。

2. 教会の公的な活動再開時の対応について

(1) 感染予防対策

① 衛生上の予防措置

- ・ 各自当日の家庭での検温を呼びかける。37度5分以上ある方は入堂を不可とするとの掲示（受付での検温は行わないが、体温計は教会に常備する）。
- ・ 受付は無人（掲示のみ）とし、誘導係（+空調管理）を1名たてる。また、献金当番（+音響管理〔マイクのスイッチ〕）は長老のみとする。分担

小会だより ～6月7日オンライン定期小会報告

は以下のとおり。

	誘導係	献金・音響
6月14日(日)	奥野長老	玉山長老
21日(日)	後藤長老	須藤長老
28日(日)	須藤長老	後藤長老
7月5日(日)	玉山長老	奥野長老

- ・ 扉や手すり、椅子等の消毒
 - ・ 入退場時の手指の消毒。消毒液を入り口およびトイレに配備。
 - ・ 会堂内でのマスクの着用義務期間をもうける。期間終了は後に小会で判断。
 - ・ 会堂でのソーシャル・ディスタンス 目安として、半径1メートルをあけて座席を配置する（礼拝堂1・2階席およびホワイエの活用）。
 - ・ 礼拝堂上段の通気窓は開け放し、下は定期的に換気する（換気時には南北の扉も開放）。
 - ・ 礼拝・集会後はすみやかな解散を求める。
- ② 礼拝プログラムについて
- ・ 説教壇に購入したアクリル板を立て、司式・説教時のみ牧師はマスクをはずす。
 - ・ 礼拝時間は午前10時半から最大45分とする。
 - ・ 牧師室における礼拝15分前の祈り会は行わず、各自で、奉仕者も5分前に着座して、礼拝への備えの時をもうける。
 - ・ 説教最大約25分。「こどもの説教」と（大人の）「説教」を足して二で割る語り（双方に呼びかけ）。
 - ・ 聖餐はコロナ禍終息まで行わない。
 - ・ 讃美歌は讃栄・頌栄全2曲に減らし、歌唱は牧師のみ（説教壇にアクリル板を設けるため）。これにはオンライン配信の著作権の配慮も関わる。
 - ・ 礼拝後の「報告」は行わず、礼拝式文内に、説教後の執り成しの祈りに先

小会だより ～6月7日オンライン定期小会報告

立つ司式者による「公告」を組み入れる。

- ・ 献金は礼拝堂から出るにあたって、ささげていただくように献金袋を設置。担当者は礼拝前後に手洗い・消毒をすることとし、祈りの際もマスクを外さない。礼拝後の会計実務は、担当長老のみで行う。

(2) 今後のインターネット利用

① 礼拝配信

- ・ すでに配信中の動画のうち、7月以降は詩編 42 / 43 講解のみ継続公開。他は非公開に。
- ・ 今後も配信を継続。7月以降は毎週期限付きの公開。
- ・ 今後の課題として、ライブ配信の技術的な問題は残る。

② ホームページ更新

- ・ トップページ「最新のお知らせ」を編集し、これまでの牧会書簡等を「牧師室」にまとめ。
- ・ 今後のリニューアルの可能性については、引き続き小会で検討する。

③ Skype や Zoom の活用

- ・ 6月18日（木）以降週に1度、Zoom で、牧師個人主催の聖書のまなびと祈りの会を行う。
- ・ その後、ホワイエでの集会として再会して後も、Zoom による祈祷会参加をホームページやメールによる連絡をとおして募る（参加人数として記録）

(3) 葬儀等について

- ・ 原則として、コロナ禍終息まで、4月の定期小会で決議した指針のとおり、緊急時としての対応を継続する。つまり、各件の判断を牧師に一任した体制をとる。

以上です。

【文責；小会議長 教師大石周平】

木曜日の祈禱会は、お休みが継続されます。ただ、牧師個人として、オンライン会議の「Zoom（ズーム）」を利用した、**ビデオ通話による聖書の学びと祈りの会**を立ち上げようと思っています。

まずは、6月18日（木）午前10時30分～11時30分の予定で行います。主題は旧約聖書『ルツ記』講読。

参加を希望される方は、fuchu_nakagawara_church@hotmail.com（大石）にメールをください（違う時間帯なら参加できるのに、という方も声をお聞かせください）。ただちに、こちらから「**招待メール**」をお送りします。メール内のリンクをクリックしていただければ——カメラとマイクの機能が有効なスマホやパソコンがインターネットにつながってさえいれば——そのまま、何の登録作業やダウンロードもなしに参加できます。

どうぞ、参加したいけれども技術的な問題がある、という方は、技術的な知識のあるご家族・身近な方や教会員にたずねてみてください。小会メンバーでは、後藤長老や私におたずねいただければ、一定のサポートができると思います。このようなあり方に「技術格差」が生じることは承知していますが、ぜひ、これを機に、いずれ私たちが教会に通えなくなったとしても、顔を合わせて祈る機会をうるための準備と考え、最初から諦めず、できるだけ、この壁を超える努力をしていただければと思います。一度だめでもしばらく続けます。なんどでも「参加」にトライしてみてください！